

学園便り

遊楽部学園
自治会

遊楽部学園

開講四十周年に想う

河原 忠義

(前号より続く)

遊楽部学園の開講は昭和四十八年五月に元八雲町議会議長職に在られた久保田正秋氏(当時七十二才程)を初代運営委員長に迎えて、高齢者を学級として四班編制で発足してあります。以降先輩諸氏、並びに現在までの在籍者の永々とした努力の積み重ねで、漸くにして四十周年の歴史を刻む事が出来ました。



受賞者を代表して謝辞を述べる

私は平成十一年(十三年度)に亘り自治会長に在った関係で、十四年五月の遊楽亭での開講三十周年の記念式典、と祝賀会を取り仕切つて居ります。私の存命中で、恐らく最後の待ち遠

しかつた記念式典だったのです。九十二才で杖を付きながら辛うじて式典に参加することが出来、会わせて感謝状を拝授したことで、在籍二十二年間を静かに想起して居りました。受賞者を代表して謝辞を述べた。登壇したとき、此の会が八雲町高齢者の中核団体として、之からも末永く発展してくれる事を願わずには居られませんでした。

現在の私の体調は両下肢が痺れて身体の不調が衰え、歩行に障害を来しておりますが、未だ内臓は至つて健在で食事美味しく、ボケの自覚症状も有りません。毎晩日記をパソコンで打つて居りますだけに、学園にも今暫く在籍したいものだと思つて居ります。

現在の居所は栄町十三の一の社会福祉法人立栄会ケアハウスなのはな6号室で、此処が稍々もすると私の終の棲家になるかも知れないのです。それだけに同宿者との交流に齟齬のない様に留意しております。私の車の運転免許証も二十五年三月迄となつており、今年の降雪期で返納することになり一応覚悟しております。八十五年住み慣れた野田生一七番地の居宅も衣類、布団、貴重品等をその儘にして、居抜きで空き屋にして、男性高齢者が独居になつてから、二十五、六年の自活は、自らが哀れに成つて居ただけに、ケアハウスの生活は食事、暖房の心配が無くなり加えて周囲の同居者と会話の出来ることは、何よりの有難い事です。私がここに入居したことで一番安堵しているのは札幌在住の長男だろつと思ひます。

私が黄泉への旅立ち前は、寝込みない、ボケないが神仏に願う何より

の心情ですが、誰も大丈夫ですよと保証してくれる人は居りません。私の前世からの授かつた定めを知る由もないだけに、成り行き任せと云うことに成りますか? 学園開講四十周年に当たり、私がその半分の二十年間を在籍したことを想起して、これからの余生の穏やかな日暮らしが出来ることを祈つて止まないものであります。

遊楽部学園を担当

社会教育課 三坂 亮司

こんにちは。この度、遊楽部学園を担当することになりました三坂亮司です。

開講四十周年を迎える本年度のプログラムには、町内青年学級や近隣高齢者 大学との交流、記念誌の発行などが新たに予定されております。

遊楽部学園が「知識と教養を高め、社会に貢献して、いつまでも健康で充実した人生を歩むことができる」学級となるよう、楽しい内容を企画してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

遊楽部学園四十周年

記念事業にあつて

昭和四十八年五月に八雲町教育委員会が主催してはじまつた「八雲町高齢者学級」は、平成六年より親しまれる学級を目指すため「遊楽部学園」に改称され、修了生千四百五十名を輩出している教育委員会一番長寿の学級です。

開設当初から学級生による運営委員会を設け、学習プログラムの検討や学級生文集の発行など積極的な学習活動を行つていました。開設二十

けた学級自治会が組織され、通常の学級のほか、学級生の自主的な活動として、舞踊やダンスなどのサークル活動が活発に行われるようになりました。この度の四十周年記念式典・祝賀会も、自治会の主催により、平成二十三、二十四年度新旧自治会役員が実行委員となり、昨年からの準備作業を進め盛大に開催されました。山田輝雄実行委員長をはじめ、役員皆さんのご苦勞に心からお礼を申し上げます。

また、遊楽部学園元自治会長の河原忠義様から遊楽部学園四十周年記念事業を実施するにあたり、十萬円のご寄付をいただきました。今回の式典関係及び教育委員会を進めている「記念誌」発行に活用させていただきます。「ありがとうございます。」心より感謝申し上げます。

今後の主な行事予定

- 七月十三日 十時 鶴田知也公園清掃 弁当無し
- 雨天の場合は雑巾作り
- 七月十七日、十八日 花一杯運動主催研修視察 学園からは五名の参加可
- 七月二十七日 一時半 公民館 雑巾作り
- 八月一日 十二時四十五分 コミニュティへ寄贈 公民館前出発
- 熊石荘慰問 八月三日午後一時半 公民館 ふまねつと運動
- 八月九日午後六時 公民館 あついでや七夕祭り 公民館 お年寄りと子供の集い

駅前花壇

荒田耕三

今年も駅前花壇に、六月二日に協力団体の皆さんの協力を得て、苗を植えてきれいな花壇が出来上がった。



これから毎週土曜日に、朝八時半から草取りと傷んだ蕾摘みの作業が十月末まで続く。遊楽部学園も七月七日、八月四日、九月一日、九月二十四日、最後の整地作業の十月二十八日の五回の協力が予定されている。都合の出来る人は是非協力をお願いしたい。しかし、この苗植え作業に至るまでに、結構大変な作業があった。まず五月二十五日に黒土が役場のダンブで二台来た。

その土を各花壇に入れて均す。次の日は肥料が来てそれを又各花壇に散布する。二十七日は花壇の土起こしをした。(私は甥子の結婚式のため欠席)六月一日は線引きと穴あけをした。この作業は二十七日を除いてはほとんど花いっぱい推進運動の役員六・七人でやった。

特に小畑さんの活躍には頭が下がる。花いっぱい運動の事務局長なので何から何まで先頭を切って指図をしたり、自ら動いてくれる。私なんかはただ言われたことを、ハイハイと言っただけだ。

山田前会長さんの努力で、今まで花いっぱい役員が一昨年迄は学園から二人だけだったのを、去年から三人増やして五人になった。それで小畑さんと山田さんの外に、私と堂七さんと庄司さんが加わった。

そういうわけで、私も役員の一人になったので、なるべく出れる日は出て協力をしている。植えた二日の夕方にはこの頃日照りが続いているので水まきしようという事で、六人で五時から水撒きをした。一時間半かかった。

何しろ広いもんで何をするにしても時間がかかる。しかしこの花壇を見た人が、やあ、きれいだね、良く手入れしているね、と言ってくれると今までの苦労も報われる。毎朝散歩の時に駅前を通って、きれいに花が咲いている花壇を見るのを楽しみにしている。

少年の主張を聞いて

五月十九日

八雲ライオンズクラブ主催による第二十九回少年の主張八雲大会を傍聴しました。町内には中学校の五校から十八名が次々と演壇に立ち五分間の時間で自分の主義主張を述べた。審査員七人によって上位五人が選出され、最優秀賞には野田生中学校二年池内聖佳さんが「孤独死をなくす為に」選出されました。選考基準が内容、発表態度等色々



加味されていると思うが、残念なのは個人によっては声がマイクに乗らない部分もあり、主催側としてマイクの調整、音量の調整等、きめ細かに配慮する必要があります。

孤独死は我々高齢者にとっては身近で切羽詰まった問題であり、身に詰まる想いで拝聴しました。

マスコミ等で度々報道される社会問題を真剣に見つめ、決して他人事であり、家族としてできる限りの対応を取っている、地域みんなでお年寄りを支えようと訴えていました。

こうした暖かい声かけを素直に、善意を甘んじて援助を受け入れてこそ孤独死防止の第一歩であると思います。これを拒否して引き籠もり、世間から絶縁状態と成っては行政も手の施しようもありません。

高齢者の一人暮らしが常態化されている昨今、誰も看取られず亡くなるのが全て孤独死なのか恭義のあるところですか。若し、私は妻を介護しているのです、私が急死したら、妻も飢え死にです。しかし、週に二回訪問介護を受けて居るので一週間以内には確実に発見されるでしょう。

せめて腐敗や白骨化は避けられそうです。孤独死の定義がまだ曖昧で一週間以内なのか一ヶ月以内なのか定かではありません。

人生の終末を大往生するのか、孤独死するのか、のたれ死にするのか、考えさせられました。

山田記